

三年、補充プリント④

(二) 助動詞

意味と言葉をセットで
覚えること！

- 例 私は詩を書く。
「ない」を加えて意味を否定する。
「ます」を加えて丁寧な表現にする。
「たい」を加えて希望を表す。
「た」を加えて過去のことを表す。
- (1) 私は詩を書かない。
(2) 私は詩を書きます。
(3) 私は詩を書きたい。
(4) 私は詩を書いた。

例のように、「ない」「ます」「たい」「た」などの単語をつけ加えることによって、「書く」にいろいろな意味を添えることができます。これらの単語を助動詞といいます。

助動詞とは

※助動詞は全部で十二種類

・付属語で、活用があります。

・用言・体言や他の助動詞などに付いて、意味を付け加えたり、話し手・書き手の気持ちや判断を表したりします。

- (1) 彼も本を読みたかろう。
(2) 彼は本を読みたかった。
(3) 私は本を読みたくなる。
(4) 私は本を読みたい。
(5) これは私の読みたい本だ。
(6) 本が読みたければ図書館へ行け。
- (未然形)
(連用形)
(連用形)
(終止形)
(連体形)
(仮定形)



このように、「たい」という助動詞は、形容詞とよく似た活用をします。
ほかにも動詞や形容動詞に似た活用をしたり、独自の活用をしたりする助動詞があります。

よく出るから覚えよう!!



① れる・られる

(1) 受け身 (2) 可能 (3) 尊敬 (4) 自発の助動詞

- 友達に慕われる。
友達から教えられる。
二十分で行かれる。
すぐに覚えられる。
先生が本を読まれる。
おじさんが来られる。
故郷が思い出される。
父のことが案じられる。
- 受け身 「〜に〜される」の意味を表す。
可能 「〜することができ」の意味を表す。
尊敬 「〜なさる」という、他を敬う意味を表す。
自発 「自然に〜する」の意味を表す。



最近増えている話し方に、「すぐに覚えれるよ。」「君にも見れるよ。」があります。これらをいわゆる「ら抜き言葉」といいます。本当は「覚えられる」「見られる」とするべきです。五段活用とサ行変格活用は「れる」、その他の活用は「られる」が続きます。

② せる・させる

使役（人に命じてさせる意味）の助動詞

- 本を読ませる。
もう少し詳しく調べさせる。
明日は彼女にも来させよう。

学習を確かめよう

① 次の動詞に「〜」内の助動詞をそれぞれつなげるとどのような形になるか。例にならって書きなさい。

例 読む (よませる ・ よまれる ・ よもう)

(1) 行く ()

(2) 着る ()

(3) 食べる ()

(4) する ()

(5) 来る ()

「せる・させる れる・られる う・よう」

② 次の文中の助動詞に——線を引きなさい。

- (1) 私の家のねこが、急に姿を消した。
(2) 父は、急用ができて東京に出かけるらしい。
(3) 日本には、外国からの輸入品がたくさんあります。
(4) 母は、絶対に飛行機に乗らないといっているそうだ。

学習を確かめよう

① 次の文中の——線部の「れる」「られる」は、A 受け身 B 可能 C 尊敬 D 自発のどれにあたるか、記号で答えなさい。

- (1) 一時間ぐらいでふもとまで下りられる。()
(2) 写真を見ると母のことが案じられる。()
(3) ぼんやりしていて、人に追い越される。()
(4) おじさまはときどき目をつぶって考えられる。()
(5) 先生から頼りになるとほめられた。()
(6) 夏にいつも思い出されるのは、あの山の風景だ。()
(7) 友に支えられて、ここまでやってきた。()

② 次の文中の——線部を、助動詞を使って使役の意味になるように書き直しなさい。

- (1) すぐにやめるように指示をした。()
(2) これを見るとよい。()
(3) 三時に来ればまに合う。()
(4) 熱があるので薬を飲む。()
(5) 今から勉強します。()



「れる」「られる」と同じように、五段活用とサ行変格活用は「せる」、その他の活用の種類には「させる」が続きます。「見せる」「着せる」などはそれだけで一つの動詞です。